

授業科目 リハビリテーション看護学

【担当教員名】 新谷恵子 栗原弥生 荒木玲子	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

生活障害に焦点をあて、その人が生活を再構築し、最適生活を営むために必要なリハビリテーション看護のあり方、具体的方法について理解する。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. リハビリテーション看護学の概念を理解する
2. リハビリテーション看護が必要な人の特徴を理解する
3. リハビリテーション看護が必要な人の評価方法を理解する
4. リハビリテーション看護過程と援助技術を事例で理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	リハビリテーション看護学の考え方(リハビリテーション看護とは、歴史と変遷、生活の再構築、障害者、人権、ICFの概念、社会資源と制度)	1	講義：新谷
2	リハビリテーション看護の必要な人の特徴(運動機能、循環機能、呼吸機能、感覚機能、排泄機能、コミュニケーション機能、認知機能)	2	講義：新谷
3	リハビリテーション看護の必要な人の特徴(ADL、セルフケア、自己決定、急性期、回復期、維持期)	2	講義：新谷
4	身体機能評価と障害者の心理社会的反応(BI, ADL評価, FIM, ICF, 日常生活評価、防衛機制、障害受容、自己概念、ボディイメージ)	3	講義：新谷
5	疾患・機能障害からみたリハビリテーション看護の考え方(脳血管障害、急性心筋梗塞、外傷性脳損傷、脊髄損傷)	4	講義：栗原
6	疾患・機能障害からみたリハビリテーション看護の考え方(熱傷、感覚器障害、切断、ストーマ造設)	4	講義：荒木
7	疾患・機能障害からみたリハビリテーション看護の考え方(パーキンソン病、関節リウマチ、嚥下障害、精神障害)	4	講義：新谷 他(後日通知する)

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	特に指定しない			
参考書	リハビリテーション看護論、中西純子、ヌーヴェルヒロカワ QOLを高めるリハビリテーション看護、医歯薬出版 厚生白書、厚生省監 国民衛生の動向、厚生統計協会 国民の福祉の動向、厚生統計協会 看護婦の責任と倫理、日本看護協会出版会 国際生活機能分類(国際障害分類改訂版)、中央法規			
その他の資料	適宜プリントを配布する			

【評価方法】 試験(80%)と参加状況(20%)により 評価する	【履修上の留意点】 授業でできることは限られているので、自ら積極的に文献などを読むことを期待します。
--	---

看護学
専攻